

Risk Flash No.183 (Vol.5 No.25)

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター
発行責任者：リスク研究センター長 久保英也

- 海外体験記：ラオスでの学生交流とボランティア活動・・・・・・・・・・Page 1
- リスク研究センター通信・・・・・・・・・・Page 2

海外体験記

ラオスでの学生交流とボランティア活動

経済学部 3 回生 きたがわゆう き 北川雄基
経済学部准教授 きむびよん き 金 秉基

金ゼミでは毎年ラオス現地で大学生との交流活動や小学校を訪問してボランティア活動を行います。今年の 9 月に行われたラオスのゼミ活動を紹介したいと思います。

私たちはこのたび、例年実施しておりますゼミの学生によるラオス訪問を実施致しました。その活動内容をご紹介するにあたり、まずラオスという国について簡単に説明させていただきます。

ラオスは東南アジアに位置し、当地域で唯一の内陸国です。日本の本州ほどの広さを持ち、人口は約 600 万人とされています。そして、世界的にも貧しいとされる国の 1 つでもあります。首都であるビエンチャン、歴史的価値の高い都市であるルアンパバーンという 2 大都市を有し、現在順調に経済成長を続けています。

今回、私たちは首都のビエンチャンに入り、そこで約 1 週間滞在しました。訪問の目的は、開発途上国の現状を自らの目で確かめること、現地の大学生や小学生との交流活動、そして、それらの活動を 1 つのプロジェクトとしてまとめ、形にして発信できるようにすることでありました。そのために大学の学生自主企画プロジェクトと呼ばれる制度を利用し、帰国後に成果を発表できる公の場を確保して臨みました。そして迎えたラオスでは、アジア独特の雰囲気や食事に感銘を受け、また現地を実際に自分たちの足で歩くことによって、ラオスが開発途上国と言われる所以やラオスの人々の温かさに触れることができました。ラオス国立大学の学生との交流では、現地のスタッフの方々の全面的なご協力のもと、互いの国の伝統食を教え合ったりサッカーをしたりといったソフト面での交流と、環境問題についての国際会議のシミュレーションや、日本によるラオスへの支援の在り方についての議論といったハード面の交流を 2 日間に分けて無事行うことができました。また、現地の小学校を訪問し、現地スタッフの方のご協力を得て文化交流を行うこともできました。

ゼミ生のそれぞれが、大学担当、小学校担当、連絡担当などそれぞれの役割に分かれて調整を続け、金先生をはじめ多くの人のご協力を得て今回のプロジェクトを何とか形にすることができたのではないかなと思います。今後は、プロジェクトの成果を発表する場に向けての調整をゼミ内で行っていく予定です。

リスク研究センター通信

①平成 26 年度企画展・総合研究棟〈士魂商才館〉開館記念関連講演会

日時：10 月 25 日（土）13：00～

会場：滋賀大学経済学部講堂

プログラム： 「両伊藤家伝来史料にみる事業経営の歴史」 史料館館長 宇佐美英機
「農産物総合物流戦略」

丸紅(株) 農産ユニットディレクター・農産部長 近藤孔明氏
「大型量販店物流システムの一例ー物流の仕組みと課題ー」
(株)スーパーレックス 取締役副社長 松林彰次郎氏

（開催中の下記企画展もぜひご覧ください。）

企画展 伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革 ー地商いから商社へ その2ー

日時：10 月 14 日（火）～11 月 7 日（金） 9 時 30 分～16 時 30 分

（土・日・祝日休館（10/25、11/1・2 は開館します。））

場所：附属史料館 1 階展示室

（お問い合わせは、附属史料館までお願いいたします。）

②経済学部講演会のご案内

日時：10 月 30 日（木）16：00～18：00

会場：滋賀大学経済学部講堂

演題：韓国経済の現状と今後の日韓関係

講師：三橋貴明氏（経世論研究所所長、経済評論家・中小企業診断士）

歴史的にも文化的にも日本と深いつながりがあり、様々な対立や軋轢も生じている韓国。その韓国経済の現状はどうなっているのか。そして今後の日韓関係の行方は？講師は、著作・テレビ・インターネット等で大活躍の三橋貴明氏です。三橋氏は、いち早く韓国経済の本質と問題点を鋭く指摘し、日本の対処すべき処方箋を指し示してこられました。ご講演では、中国との関係をも踏まえての貴重なお話を伺います。ぜひ多くの方のご来場をお待ちいたします。

（お問い合わせは、経済経営研究所までお願いいたします。）

「リスクフラッシュご利用上の注意事項」

本規約は、滋賀大学経済学部附属リスク研究センター（以下、リスク研究センター）が配信する週刊情報誌「リスクフラッシュ」を購読希望される方および購読登録を行った方に適用されるものとします。

【サービスの提供】

1. 本サービスのご利用は無料ですが、ご利用に際しての通信料等は登録者のご負担となります。
2. 登録、登録の変更、配信停止はご自身で行ってください。

【サービスの変更・中止・登録削除】

1. 本サービスは、リスク研究センターの都合により登録者への通知なしに内容の変更・中止、運用の変更や中止を行うことがあります。
2. 電子メールを配信した際、メールアドレスに誤りがある、メールボックスの容量が一杯になっている、登録アドレスが認識できない等の状況にあった場合は、リスク研究センターの判断により、登録者への通知なしに登録を削除できるものとします。

【個人情報等】

1. 滋賀大学では、独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律（平成15年5月30日法律第59号）に基づき、「国立大学法人滋賀大学個人情報保護規則」を定め、滋賀大学が保有する個人情報の適正な取扱いを行うための措置を講じています。
2. 本サービスのアクセス情報などを統計的に処理して公表することがあります。

【免責事項】

1. 配信メールが回線上的問題（メールの遅延、消失）等によりお手元に届かなかった場合の再送はいたしません。
2. 登録者が当該の週刊情報誌で得た情報に基づいて被ったいかなる損害については、一切の責任を登録者が負うものとします。
3. リスク研究センターは、登録者が本注意事項に違反した場合、あるいはその恐れがあると判断した場合、登録者へ事前に通告・催告することなく、ただちに登録者の本サービスの利用を終了させることができるものとします。

【著作権】

1. 本週刊情報誌の全文を転送される場合は、許可は不要です。一部を転載・配信、或いは修正・改変してblog等への掲載を希望される方は、事前に下記へお問い合わせください。

*尚、最新の本注意事項はリスク研究センターのホームページに掲載いたしますので、随時ご確認願います。

*当リスクフラッシュをご覧頂いて、関心のある論文等ございましたら、下記事務局までメールでお問い合わせください。

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

**編集委員：ロバート・アスピノール、大村啓喬、菊池健太郎、
金秉基、久保英也、柴田淳郎、得田雅章、山田和代**

滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局（Office Hours: 月～金 10:00-17:00）

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場 1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

Web page : <http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2>